

♪ 2023年度 **poco a poco** ♪

Nr. 7 2023年6月28日(水)

文責:プファイル・辰巳

夏至も過ぎ・・・

6月21日が夏至でした。今が一番日の長い時期ですね。白アスパラやイチゴの最盛期もあっという間に終わってしまい、今はサクランボが旬となりました。その他にもいろいろな種類のベリー類が、マルクトを賑わしています。蒸し暑い日もありますが、日本の猛暑に比べると文句はいえませんが、それでも水分補給をこまめにしたり、汗をしっかりと拭いたりしながら、体調管理につとめましょう。水泳教室も始まりました。中学部のみなさんは学期末テストもあります。夏休みまでもうひとがんばりです!



<音楽こぼれ話 音楽の中で活躍する動物たち ⑤ お魚いろいろ>

音楽の中に出てくるお魚、みなさんはまず何を思い浮かべますか? 日本の古い童謡ですと、「めだかの学校」や「どじょっこ ふなっこ」などの歌があります。90年代には、全国漁業協同組合のキャンペーンソング「おさかな天国」なんていう曲もありました。「崖の上のポニョ」もお魚の子どもでしたね。

西洋クラシック音楽の世界では、やはりシューベルトの「鱒 (Forelle: マス)」が有名でしょうか。オーストリアのウィーンで生まれ、生涯をそこで過ごした生粋のウィーンっ子で、ベートーヴェンと同じ時代を生きたフランツ・シューベルト。中学生の教科書ではシューベルトの歌曲「魔王」が鑑賞教材になっています。その他にも「野ばら」や「子守歌」「アヴェ マリア」など数多くのドイツ歌曲を作曲しました。31歳で亡くなるという大変短い生涯の中で、600曲以上の歌曲を作曲したので「歌曲の王」と呼ばれています。

「鱒」の歌詞は、シューバルトというドイツ文学者の詩が元になっています。シュー

ベルトとシューバルト、なんだかややこしいですね。

詩はお話になっていて、清らかなせせらぎの中を、矢のように素早く泳ぎ回る鱒を釣り人が狙っている場面から始まります。水が透き通っている間は、鱒が釣り上げられることはなかったのですが、ずる賢い釣り人がせせらぎの水をかき混ぜて濁らせ、とうとう鱒は釣り針にかかってしまう、という結末です。これは男女の恋の駆け引きの象徴ではないかとも言われています。

シューベルトはこの「鱒」のメロディを、後にピアノ5重奏「鱒」(弦楽四重奏とピアノで演奏)の主題として使用し、第4楽章を変奏曲に仕上げています。歌曲「鱒」のメロディがそれぞれの弦楽器やピアノに引き継がれていき、リズムや調が変奏されていくのが分かる楽しい曲です。

フランスの作曲家サン・サーンスの「動物の謝肉祭」の中には「水族館」という曲が入っています。水族館の淡い光の中で、様々な魚たちが泳ぎ回る姿が、幻想的に表現されています。その昔「のだめカンタービレ」というドラマがありましたが、その中でもBGMの1曲として、この「水族館」が使われていました。

その他にもドビュッシーの「金色の魚」、サティの「夢見る魚」などの曲があります。お魚にも作曲家たちのインスピレーションを湧き起こさせる不思議な力があるようです。

ちょっとだけ 演奏会情報

夏のフェスティバル紹介 ③

～ Rheingau Musik Festival ～

6月24日 ～ 9月2日まで

ライン川の右岸に広がるラインガウ地方はブドウの産地としても有名ですが、夏の音楽フェスティバルの開催地としても有名です。コンサート会場は、ヴィースバーデンのホールだけではなく、エーバーバッハ修道院の中庭だったり、各地の教会堂だったりします。ソロコンサートからオーケストラ、クラシックからジャズ、野外コンサートからワインやお食事付きのコンサートまで、実に様々なコンサートプログラムが用意されています。詳しくは下記のサイトをご覧ください。

www.rheingau-musik-festival.de

Tel 06723 602170